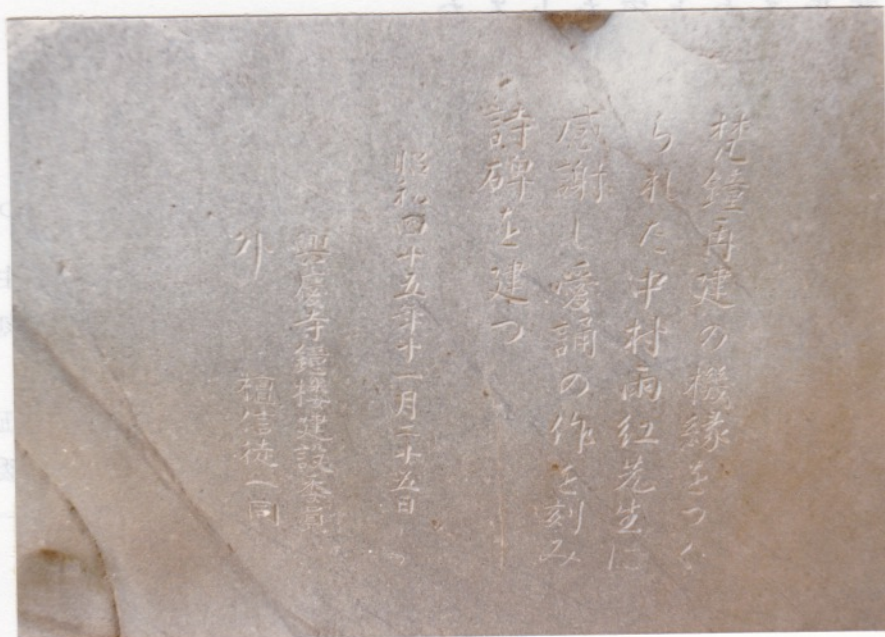
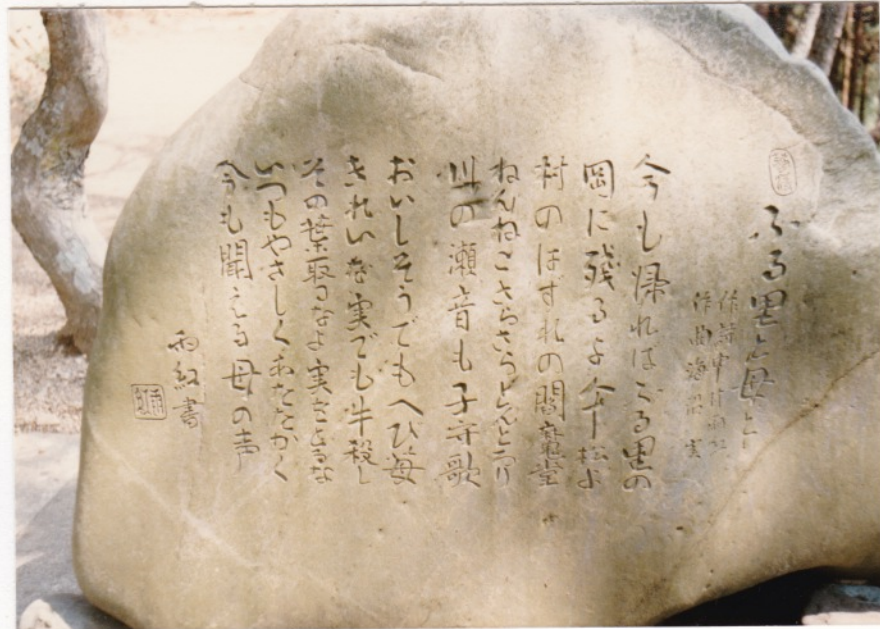




中村雨紅歌碑

所在地 東京都八王子市上恩方町二〇四 興慶寺梵鐘

南 無 釋 迦 尼 佛

鐘 銘

興慶寺ここのみ寺の鐘の音を

今日も安らに聞くぞ嬉しき 中村雨紅

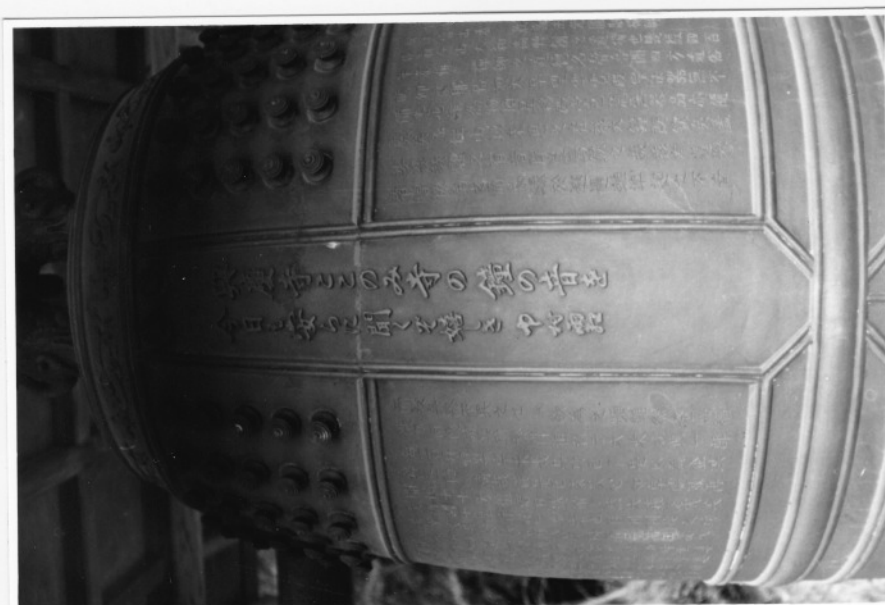
鐘 銘 続 き

萬 蔵 山 興 慶 禪 寺

略

略 歴

中村雨紅 本名 高井宮吉 明治三十年三月六日 東京府南多摩郡恩方村上恩方に生まれる 青山師範卒 日本大学国漢科卒業 昭和四十七年五月八日歿す 享年七十五歳 神官出身のため法名は無い 墓は東京都八王子市上恩方 高井家墓地にある



中村雨紅歌碑

所在地 東京都八王子市上恩方町 1040 興慶寺梵鐘

南 無 釋 迦 尼 佛

鐘 銘

興慶寺ここのみ寺の鐘の音を

今日も安らかに聞くぞ嬉しき 中村雨紅

鐘 銘 続 き

萬 蔵 山 興 慶 禪 寺

略



中村雨紅詩碑

所在地 東京都八王子市上恩方町高留 宮尾神社境内

夕焼小焼

中村雨紅

夕焼小焼で日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで比目帰らう

鳥と一緒に帰らませう

中村雨紅書

副碑

名芳者賛協碑建

六十一名

列記

(略)

副碑裏面 文字なし

碑陰

夕焼小焼

一 夕焼小焼で

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで比目帰らう

鳥と一緒に帰らませう

二 子供が帰った

筆名中村雨紅先生略歴
明治卅年二月恩方村宮尾神社
の地にお寺の鐘が鳴る
各地の小中高等學校に奉職
大正五年青山師範卒業後童謡
童謡詩作に志す 大正七
年野口雨情氏に師事その後
日本作歌者協會々員となる
昭和年初から専ら童謡唱歌詩
の作成に轉じ傍ら諸方の校歌
民謡音頭等にも筆をとる
昭和十五年の作日本讀歌は
を賜わる

建碑の由来

大正時代に作詞された幾多重謡の傑作中
郷土の詩人中村雨紅先生作詩草川信先生
作曲の夕焼小焼は広く児童に愛唱され国
内では勿論海外十数ヶ国に紹介された代表
作である 今回先生の遺曆を壽ぎ郷党挙
つて先生の偉大な藝術を顕彰し不朽の名
作を後世に残すため側碑に刻する有志の
協賛により茲に建碑するものである

昭和廿一年九月

発起者

尾崎 知三

菱山 榮一

小松崎 六三郎

小川 又一郎

学友 松崎 六三郎 書



中村雨紅詩碑

所在地 東京都八王子市上恩方町高留 宮尾神社境内

夕焼小焼

中村雨紅

副碑(横書き)

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰らう
鳥と一緒に帰りませう

名芳者賛協碑建

61名列記(略)

副碑裏面

文字なし

中村雨紅書

碑陰

雨紅先生略歴

夕焼小焼
一 夕焼小焼で
日が暮れて
山のお寺の
鐘が鳴る
お手々つないで
皆帰らう
鳥と一緒に
帰りませう
二 子供が帰った
後からは
まるい大きな
お月さま
こ鳥が夢を
見る頃は
空にはきら／＼
金の星

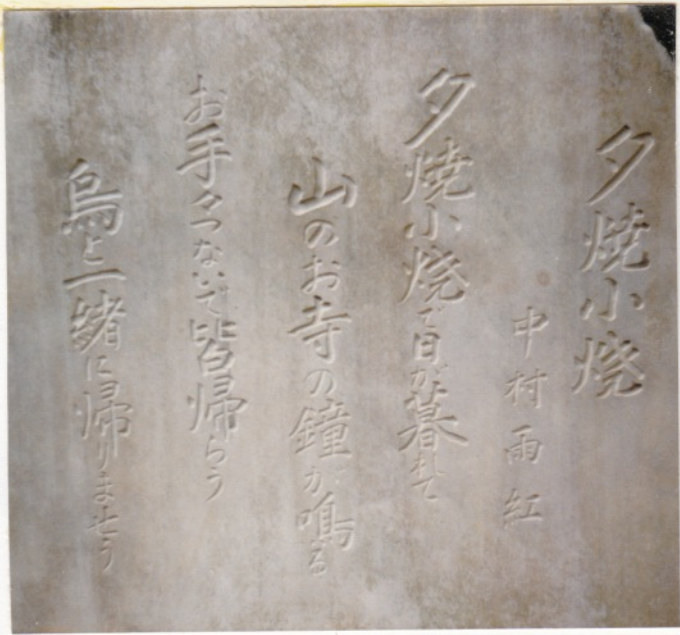
筆名中村雨紅 本名高井宮吉
明治廿念二月恩方村宮尾神社
神官高井丹吾の三男としてこ
の地に生れ恩方小學校を経て
青山師範並に日本大學に學び
各地の小中高等學校に奉職
大正五年青山師範卒業後童話
童謡詩作に志す 大正七
年野口雨情氏に師事しその後
日本作歌者協會々員となる
昭和年初から専ら童謡唱歌詩
の作成に轉じ傍ら諸方の校歌
民謡音頭等にも筆をとる
昭和十五年の作日本讃歌は
天覧を賜わる

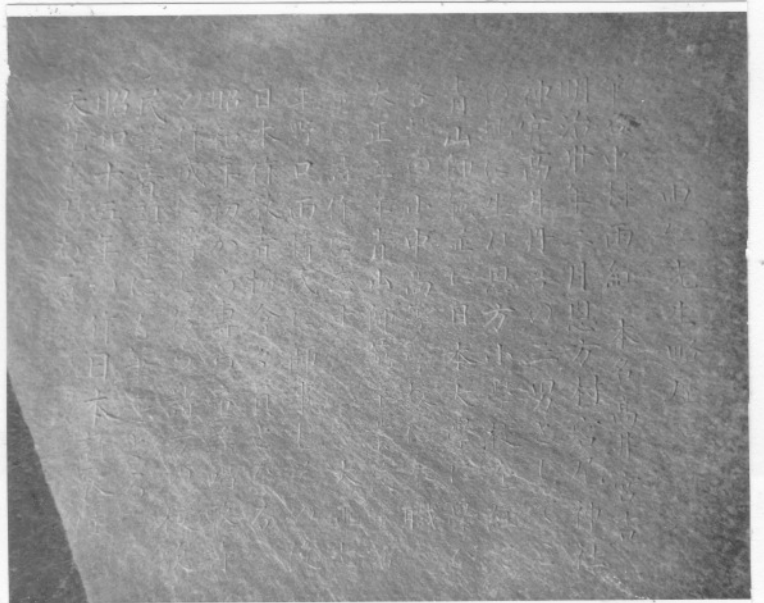
★ 尾崎 知三
菱山 榮一
松崎六三郎
小川又一郎
学友 松崎六三郎書

建碑の由来

大正時代に作詞された幾多童謡の傑作中／
郷土の詩人中村雨紅先生作詩草川信先生／作曲の
夕焼小焼は広く児童に愛唱され国／内は勿論海外
十数ヶ国に紹介された代表／作である 今回先生
の還暦を壽ぎ郷党挙／つて先生の偉大な藝術を顕
彰し不朽の名／作を後世に残すため側碑に刻する

有志の／協賛により茲に建碑するものである／ 昭和卅一年九月／発起者 ★に続く





石碑
↓



宮庭神社
←



園の方の桜
←
↓

花椿
↓



中村雨紅詩碑

所在地 東京都八王子市上野町三三〇 「夕やけ本舗万年屋」店内

夕焼小焼

夕焼小焼で 日が暮れて
山のお寺の 鐘が鳴る
お手々つないで 皆帰ろ
鳥と一緒に 帰りましょう

中村雨紅

裏面

見えず不明

(注) 店内には雨紅の遺品
が種々展示されている

所在地 神奈川県厚木市東町八四 会田石材店 店内

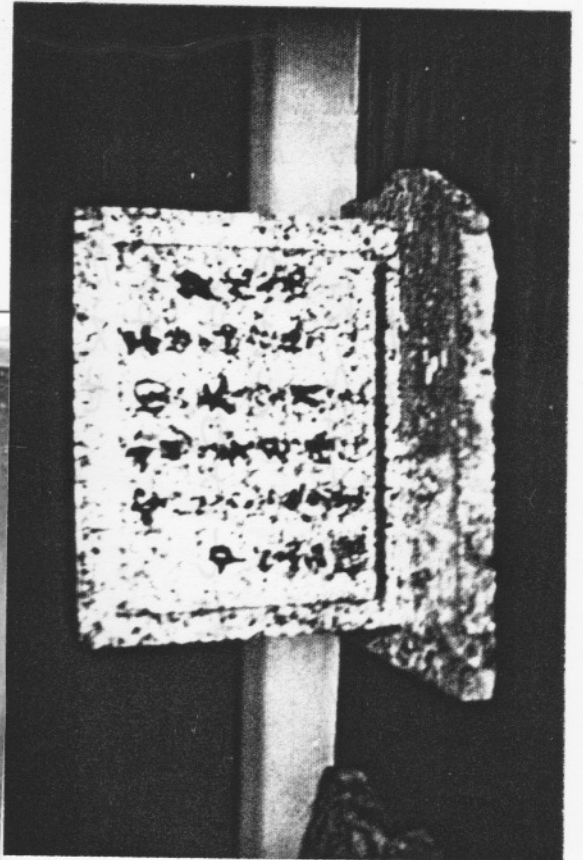
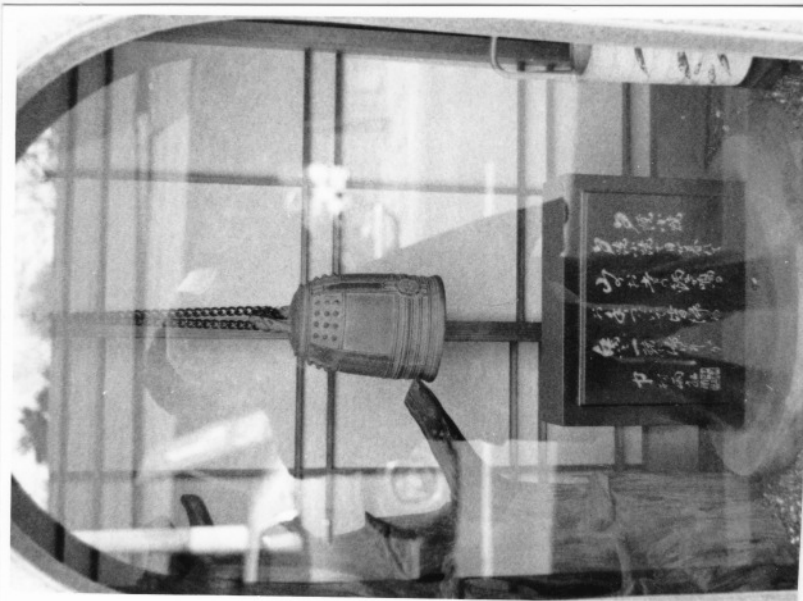
夕焼小焼

子供が帰った後からは
圓い大きなお月さま
小鳥が夢を見る頃は
空にはきらきら金の星

中村雨紅

裏面

文字なし



中村雨紅詩碑

所在地 東京都八王子市上野町 3-30 「夕やけ本舗万年屋」 ウインド内

夕焼小焼

夕焼小焼で日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで皆帰ろ

烏と一緒に帰りましょう

中村雨紅

裏面

見えず不明

(注) 店内には雨紅の遺品が種々展示されている

所在地 神奈川県厚木市東町 8-4 会田石材店 店内

夕焼小焼

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはきらきら金の星

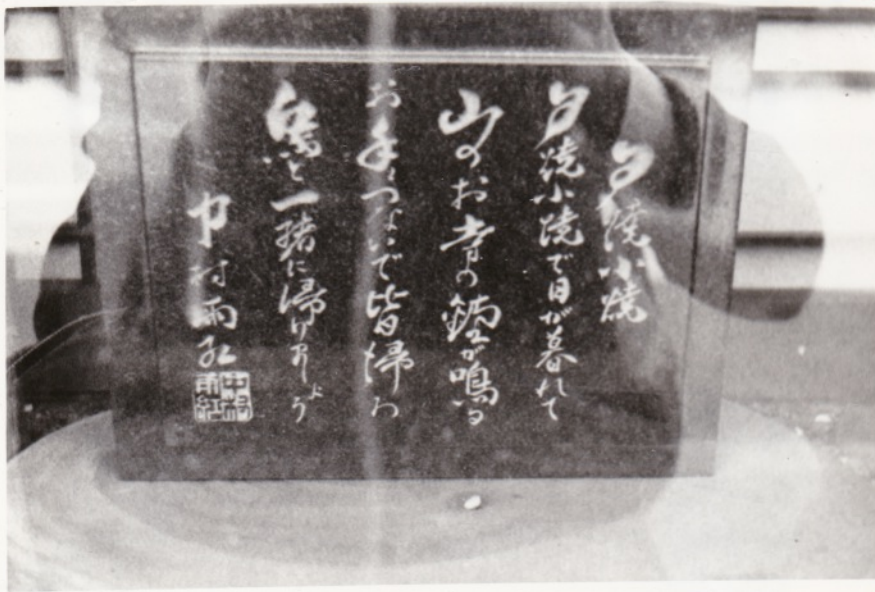
中村雨紅

裏面

文字なし

中林雨珠軒

内子 08-8 伊東市王八路京東 振彦河



内子 08-8 伊東市木草原川京東 振彦河

小焼小焼



舟子
一八
圖
島小
の空

中村雨紅詩碑

所在地 神奈川県厚木市七沢三英 「玉川館」庭内

夕焼小焼

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰ろ
鳥と一緒に帰りましょう

中村雨紅

(注) 本碑の上下に童画あり

碑陰

子孫に贈る

私は何よりこの詩が好きだ茂子の恩師
中村雨紅先生はこの地をこよなく愛される
童心は天使 童謡は心のふる里である
人生には花も嵐もある
つらいこと悲しい事があつたらこの碑の前に立つて
静かに唱つてごらん 一さいを流してくれるよ

昭和三十七年九月 建之

元湯 玉川館主

山本釣二



中村雨紅詩碑

所在地 神奈川県厚木市七沢 2776 「玉川館」庭内

夕焼小焼

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰ろ
鳥と一緒に帰りましょう

中村雨紅

(注) 碑の上下に童画がある

碑陰

子孫に贈る

私は何よりこの詩が好きだ 茂子の恩師
中村雨紅先生はこの地をこよなく愛される
童心は天使 童謡は心のふる里である
人生には花も嵐もある
つらいこと悲しい事があつたらこの碑の前に立って
静かに唱ってごらん 一さいを流してくれるよ

昭和三十七年九月建之 元湯 玉川館主

山本釣二



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市往生地二七二 往生寺境内

夕焼小焼

詩並書 中村雨紅
作曲 草川 信

碑陰
文字なし

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手手つないで皆帰ろ
鳥と一緒に帰りましょう
子供が帰った後からは
圓い大きなお月さま
小鳥が夢を見る頃は
空にはキラキラ金の星



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市往生地 1871 往生寺境内

夕焼小焼

詩並書 中村雨紅

作曲 草川 信

夕焼小焼で日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

お手手つないで皆帰ろ

鳥と一緒に帰りましょう

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはキラキラ金の星

碑陰

文字なし



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市平柴(安茂里) 阿弥陀堂境内

夕焼小焼

作詩 中村雨紅
作曲 草川信

碑陰

夕焼小焼で日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで皆帰らう

鳥と一緒に帰りませう

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはきらきら金の星

雨紅

夕やけ小やけの碑 寄進者

作詩 中村雨紅先生 二

俳画 野生司香雪先生 十

阿弥陀堂の名鐘復元に際し 名

下記の人々相謀り之が記念の

な茲に夕やけ小やけの碑を建 氏

立し両先生を迎えて開眼の 名

式典をあげ以て寄進する 列

昭和三十四年四月二十五日 記

発起人 長野白雪会 (略)

同 長野仙樵会

阿弥堂司 宮本秀慶代

(注)この詩の上下に俳画あり



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市平柴(安茂里) 阿弥陀堂境内

夕焼小焼

作詩 中村雨紅

作曲 草川 信

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰ろ
鳥と一緒に帰りましょう
子供が帰った後からは
圓い大きなお月さま
小鳥が夢を見る頃は
空にはキラキラ金の星

雨紅書

碑陰

夕やけ小やけの碑

作詩 中村 雨紅先生

俳画 野生司香雪先生

阿弥陀堂の名鐘復元に際し 寄進者氏名

下記の人々相謀り之が記念の 二

ため茲に夕やけ小やけの碑を建 十

立し両先生を迎えて開眼の 名

式典をあげ以て寄進する 列

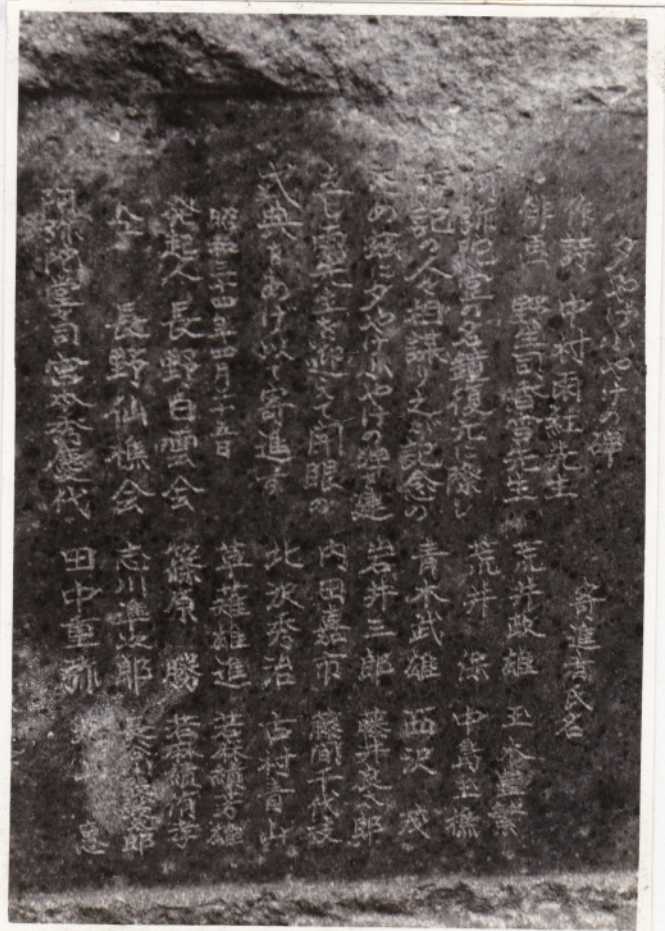
昭和三十四年四月二十五日 記

発起人 長野白雲会 (略)

同 長野仙樵会

阿弥陀堂々司 宮本秀慶代

(注) 碑表の詩の上下に俳画がある



安茂里市
見仁長路
市街
↓

中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市平柴(安茂里) 阿弥陀堂 梵鐘

夕焼小焼

作詩 中村雨紅

作曲 草川 信

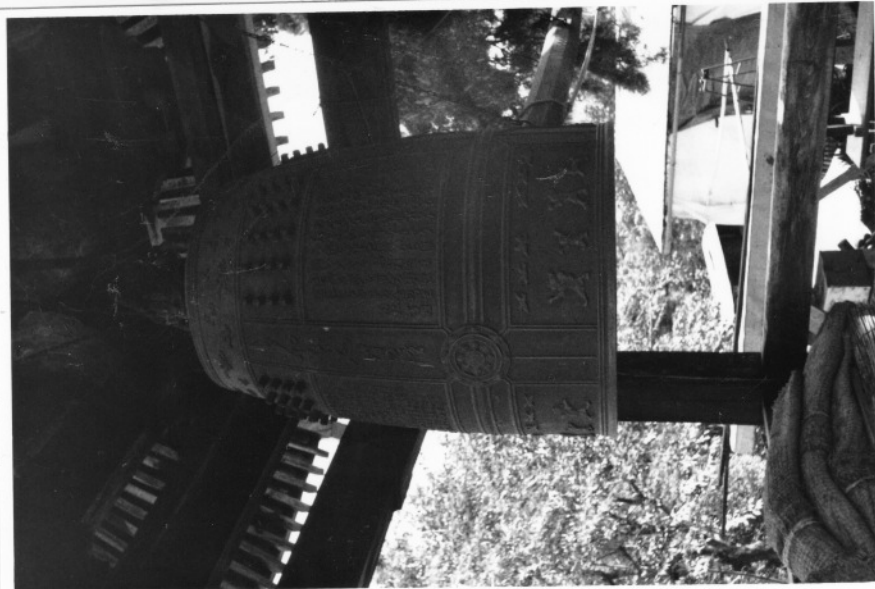
夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰らう
鳥と一緒に帰りませう
子供が帰った後からは
圓い大きなお月さま
小鳥が夢を見る頃は
空にはきらきら金の星
雨紅書

夕やけこやけの鐘

梵鐘再鑄由来記

そもそも當堂梵鐘は明治三十年十月當現場に於て時の中興默堂大達師によつて鑄造されたものである然るに太平洋戦争勃発するにあたり昭和十七年九月供出となり爾来久しく再現の機会なく惜しまれていたが今回ここに十方有縁の篤信により名実共に夕焼小焼の鐘として再鑄することを得たものである
昭和三十五年五月

名号 尊比寺上人 大田 星彦



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市平柴(安茂里) 阿弥陀堂 梵鐘

夕焼小焼

作詩 中村雨紅

作曲 草川 信

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰ろう
鳥と一緒に帰りませう
子供が帰った後からは
圓い大きなお月さま
小鳥が夢を見る頃は
空にはキラキラ金の星

雨紅書

夕やけこやけの鐘

梵鐘再鑄由来記

そもそも當堂梵鐘は明治三十年十月當現場に於て時の中興黙堂大達師によって鑄造されたものである然るに太平洋戦争勃発するにあたり昭和十七年九月供出となり爾来久しく再現の機会なく惜しまれていたが今回ここに十方有縁の篤信により名実共に夕焼小焼の鐘として再鑄することを得たものである

昭和三十五年五月

名号	善光寺上人	大宮	智榮
鐘名	大本願執事	早川	利雄
童謡	神奈川県厚木	中村	雨紅
圖案	長野県渋温泉	野生司	香雪
朝日山阿弥陀堂中興二世	宮本秀慶代		
音響設計	理学博士	青木	一郎



表本宮 世二興中堂羽神國山日勝
木青 士朝半聖 悟類響音

京都三和梵鐘鑄造所鐘辭



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市平柴 旭ヶ丘 旭香園内

ねんねのお里

作詩 中村雨紅
作曲 杉山はせを

佐藤潤生
横山あり

碑陰

今昔の
感懷風光
愛しみけり
旭香園の
春の一日
中村雨紅

ねんねのお里はよいお里

こんもり小山が西東

りんご畑も見えてます

ねんねのお里はよいお里

枝から枝へと飛び飛びに

駒鳥なんかも鳴いてます

ねんねのお里はよいお里

ひわ色とき色こげ茶色

きれいなお花も咲いてます

雨紅書

副碑(本碑の後ろにある)

作詩 中村雨紅

藺 佐藤潤生 昭和三十一年十月宸建之

碑名 芳名 百四十七名
謠者 の
童立 氏名列記(略)

建

後援 藺詩碑建設会 藺 旭園主 鈴木門

賛助 長野 自雲



中村雨紅詩碑

所在地 長野県長野市平柴 旭ヶ丘 旭香園内

ねんねのお里

作詩 中村雨紅

作曲 杉山はせを

佐藤雪洞先生

ねんねのお里はよいお里 描く童画あり
こんもり小山が西東
りんご畑も見えています

碑陰

ねんねのお里はよいお里
枝から枝へと飛び飛びに
駒鳥なんかも鳴いています

今昔の

感懷風光

愛しみけり

旭香園の

春の一日

中村雨紅

ねんねのお里はよいお里
ひわ色とき色こげ茶色
きれいなお花も咲いています
雨紅書

副碑（本碑の後ろにある）

作詩 中村雨紅先生

童画 佐藤雪洞先生 昭和三十六年十月吉辰建之

名

碑 芳 百四十七名

謡 者 の

童 立 氏名列記(略)

建

主催 童謡碑建設会 題額 旭香園主 鈴木多門

賛助 長野 白雲会

中村雨紅詩碑

所在地 長野県上田市別所温泉三套 北向観音境内

夕焼小焼

詩 中村雨紅
曲 草川信

野生司香雪先生の童画あり

夕焼小焼で日が暮れて
山のお寺の鐘が鳴る
お手々つないで皆帰ろ
烏と一緒に帰りま

しょう

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはきらきら金の星

雨紅

碑陰

碑

銘

童

北向観音堂大改築落慶に際し 長野白雲会 発願の下に
記名の篤信者により夕焼小焼の詩碑を寄進せられたる
ことを刻し永く記念せんとするものである

北向山観音堂本坊常楽寺五十五世 大僧正 半田孝海

詩 中村雨紅先生

画 野生司香雪先生 昭和廿六年四月吉辰

六十八名の氏名列記(略)



中村雨紅詩碑

所在地 長野県上田市別所温泉 1656 北向観音境内

夕焼小焼

詩 中村雨紅

曲 草川 信

野生司香雪先生の童画あり

夕焼小焼で日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで皆帰ろ

鳥と一緒に帰りま

しょう

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはきらきら金の星

雨紅

碑陰

北向観音堂大改築落慶に際し 長野白雲会 発願の下に
記名の篤信者により夕焼小焼の詩碑を寄進せられたる

碑 ことを刻し永く記念せんとするものである

北向山観音堂本坊常楽寺五十五世 大僧正 半田孝海

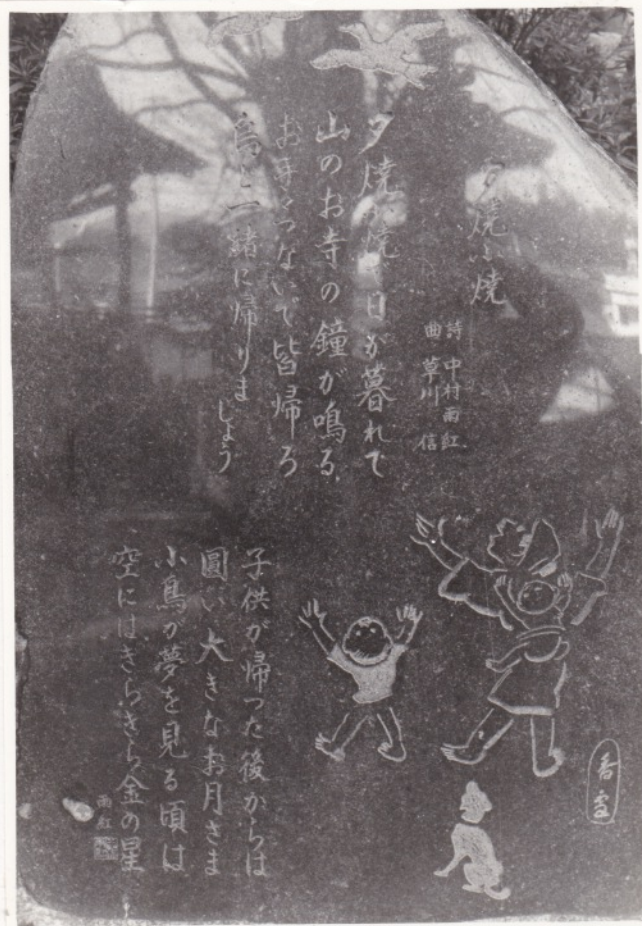
謠 詩 中村 雨紅先生

画 野生司香雪先生 昭和卅六年四月吉辰

童

六十八名の氏名列記（略）

中林雨珠翁



中村雨紅詩碑

所在地 和歌山県西牟婁郡すさみ町 江住海岸公園内

夕焼小焼

夕焼小焼で日がくれて

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで皆帰ろ

鳥と一緒に帰りましょう

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはきらきら金の星

碑陰

文字なし



中村雨紅詩碑

所在地 和歌山県西牟婁郡すさみ町 江住海岸公園内

夕 焼 小 焼

夕焼小焼で日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

お手々つないで皆帰ろ

鳥と一緒に帰りましょう

子供が帰った後からは

圓い大きなお月さま

小鳥が夢を見る頃は

空にはきらきら金の星

碑陰

文字なし



中村憲吉唱歌碑

所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町 白良浜

紀の國の温泉の濱に

見をつれ来はな蒔摘むも

冬と思はず

憲吉

碑陰

昭和三十一年十月

明光バス株式会社

田辺アララギ会



中村憲吉歌碑

所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町 白良浜

紀の國の温泉の濱に
児をつれ来はな堇摘むも
冬と思はず 憲吉

碑陰

昭和三十二年十月

明光バス株式会社

田辺アララギ会

所在地 岡山県岡山市後樂園 1-5 後楽園内 梅園の中

春寒き梅の疎
林を行く鶴の高
く歩みて枝をく
ぐらず

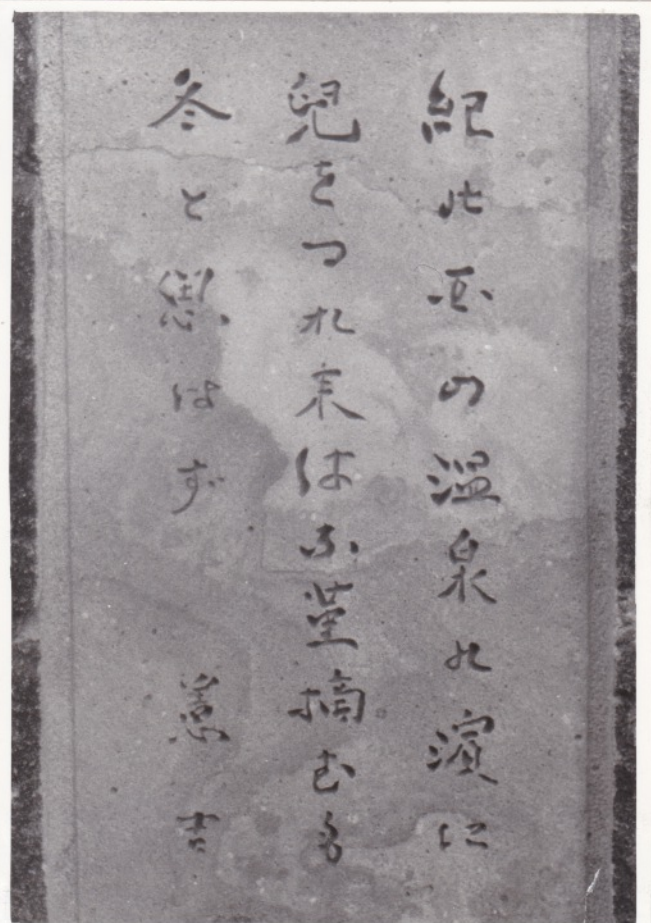
憲吉

碑陰

文字なし



会子でそて坂田



中村憲吉歌碑

所在地 岡山県岡山市古京町後楽園二五 後楽園内 梅林の中

春寒き梅の疎

林を行く鶴の高

く歩みて枝さく

ささ

憲吉口

碑陰

文字なし





中村憲吉歌碑

所在地 広島県尾道市土堂町 千光寺山中腹 旧居跡

中村憲吉大人歌碑

千光寺に夜もすかなる時の鐘

耳にまちかく寝ねかてにける

山下 佳 具 書

碑陰

中村憲吉大人略伝

明治二十二年二月二十五日広島県双三郡布野村に生まる大正四年東京帝国大学経済学科卒業学業の傍作歌に精進明治四十一年頃伊藤左千夫の門に入りアララギ派同人となる新鮮の感覚と細緻な実相写生と万葉調に加うるに一種幽微なる調べを特長とする作風を以て同派の重鎮と目せられたが晩年当山中腹の仮寓に於て養病中昭和九年五月五日惜しまれて遠逝す享年四十又六才碑面の壱首は右病中の絶唱で遺著に島木赤彦と共著馬鈴薯の花林泉集中村憲吉選集しがらみ松の芽軽雷集軽雷集以後其の他古歌評釈歌論随筆中村憲吉全集四卷等がある

昭和二十一年十一月三日

発起人 八名の氏名あり(略)

発起人撰文 曾根 桂 泉 書



中村憲吉歌碑

所在地 広島県尾道市土堂 千光寺山中腹 旧居跡

中村憲吉大人歌碑

千光寺に夜もすからなる時の鐘
耳にまちかく寝ねかてにける

山下佳具書

碑陰

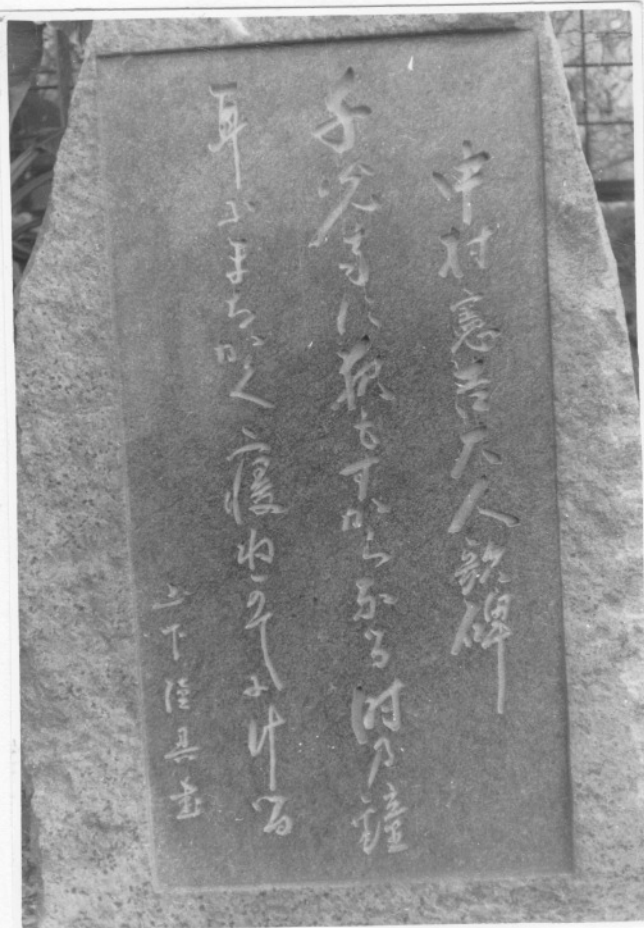
中村憲吉大人略伝

明治二十二年一月二十五日広島県双三郡布野村に生まる大正四年東京帝国大学経済学科卒業学業の傍作歌に精進明治四十一年頃伊藤左千夫の門に入りアララギ派同人となる新鮮の感覚と細緻な実相写生と万葉調に加うるに一種幽微なる調べを特長とする作風を以て同派の重鎮と目せられたが晩年当山中腹の仮寓に於て養痾中昭和九年五月五日惜しまれて遠逝す享年四十又六才碑面の壺首は右病中の絶唱で遺著に島木赤彦と共著馬鈴薯の花林泉集中村憲吉選集しがらみ松の芽軽雷集軽雷集以後其の他古歌評釈歌論随筆中村憲吉全集四卷等がある

昭和三十一年十一月三日

発起人 八名の氏名あり（略）

発起人撰文 曾根桂泉書





中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市南畑敷町二五 三次高校 玄関前

憲吉の歌

少年のわれ

山河に親しみて

此處に学べり

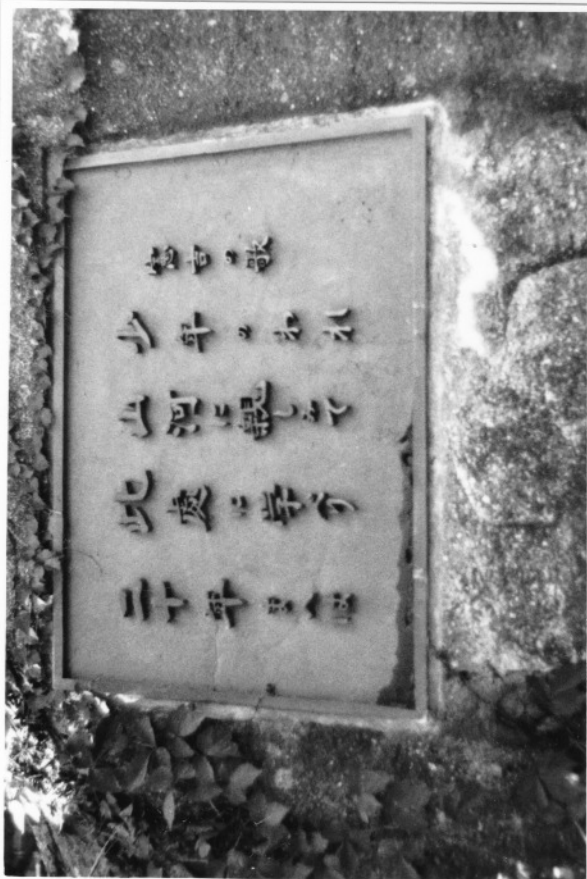
二十一年 三月 八日

碑陰

旧二中四期生アララギ派歌人中村憲吉君を追慕し之を建つ書は井上三喜夫校長なり

昭和二十八年十一月二日

三高同窓会長 大井 静雄



中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市南畑敷町 155 三次高校 玄関前

憲吉の歌

少年のわれ

山河に親しみて

此處に学べり

二十年まへは

碑陰

旧三中四期生アララギ派歌人中村憲吉君を
追慕し之を建つ書は井上三喜夫校長なり

昭和二十八年十一月三日

三高同窓会長 大井 静 雄

略歴

中村憲吉 明治 22 年 1 月 25 日 広島県双三郡布野村上布野に生れる
東大経済学部卒業 昭和 9 年 5 月 5 日歿す 享年 45 歳 法名 林泉院
釋浄信憲吉居士 墓は広島県三次市布野 役場脇上段 中村家墓地にある



林中

風鈴雨

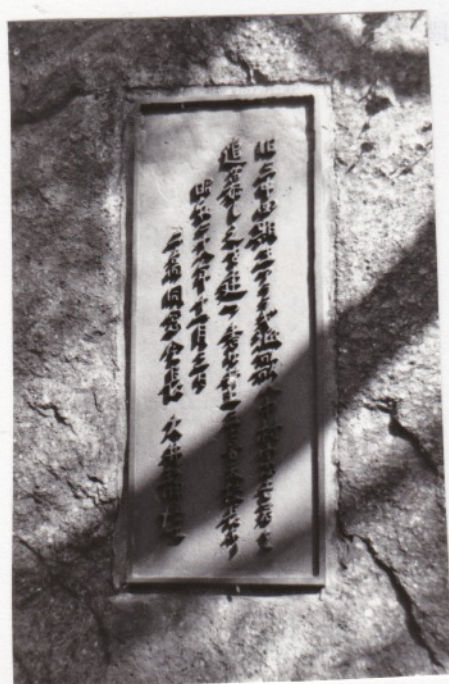
意

少

所山

興出

二



中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市 尾関山公園内

この山の

桜にむかひ

流れくる

川ひろくして

水のひかれる

憲吉

碑陰

昭和五十四年三月五日
三次まよまど 建之

副碑

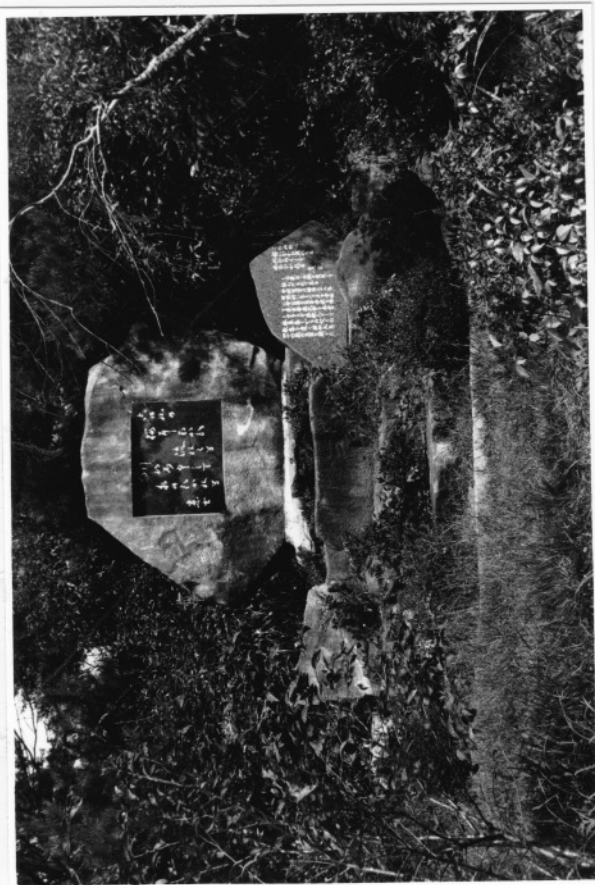
この山の

桜にむかひ流れくる

川ひろくして

水のひかれる

憲吉



この歌はこの地を逍遙して
詠んだものである
中村憲吉は 明治二十二年
布野村に生まれ三次中学校
に学び 第七高等学校を経
て東京帝国大学を卒業
し アララギ派歌人として
林泉集 しがらみ などの
歌集を遺し 昭和九年
四十六歳の生涯を閉じた

中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市三次町 尾関山公園内

この山の

桜にむかひ

流れくる

川ひろくして

水のひかれる

憲吉

碑陰

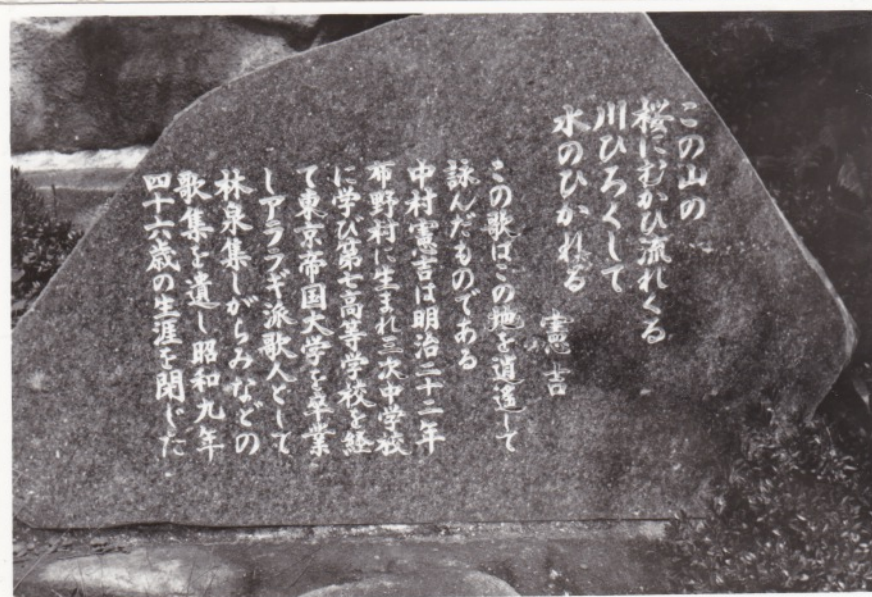
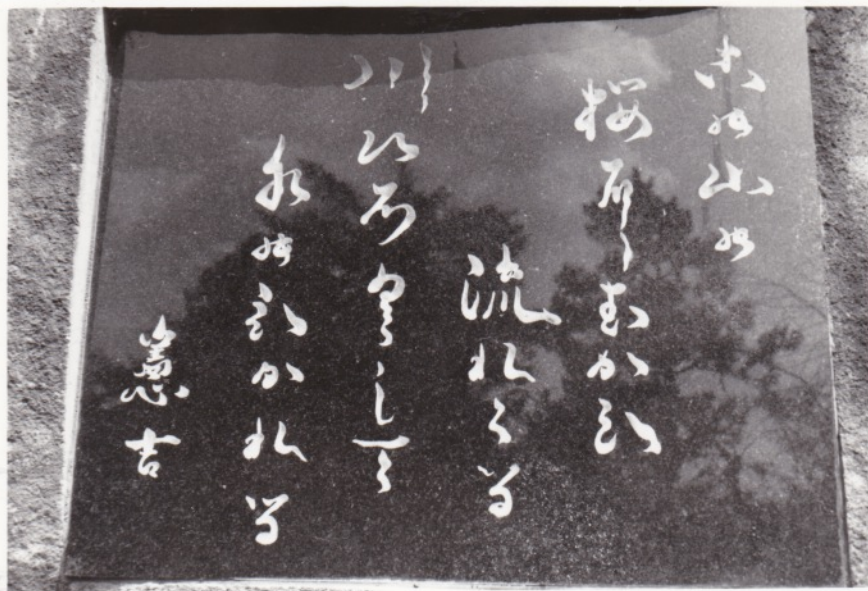
昭和五十四年三月二十五日
三次ライオンズクラブ建之

副碑

この山の
桜にむかひ流れくる
川ひろくして
水のひかれる

憲吉

この歌はこの地を逍遙して
詠んだものである
中村憲吉は 明治二十二年
布野村に生まれ三次中学校
に学び 第七高等学校を経て東京帝国大学を卒業
し アララギ派歌人として
林泉集 しがらみ などの
歌集を遺し 昭和九年
四十六歳の生涯を閉じた



中村憲吉歌碑

所在地 広島県双三郡布野村上布野二井殿 布野中学校 隣の森林中

満月は暮るゝ 朧より須臾に

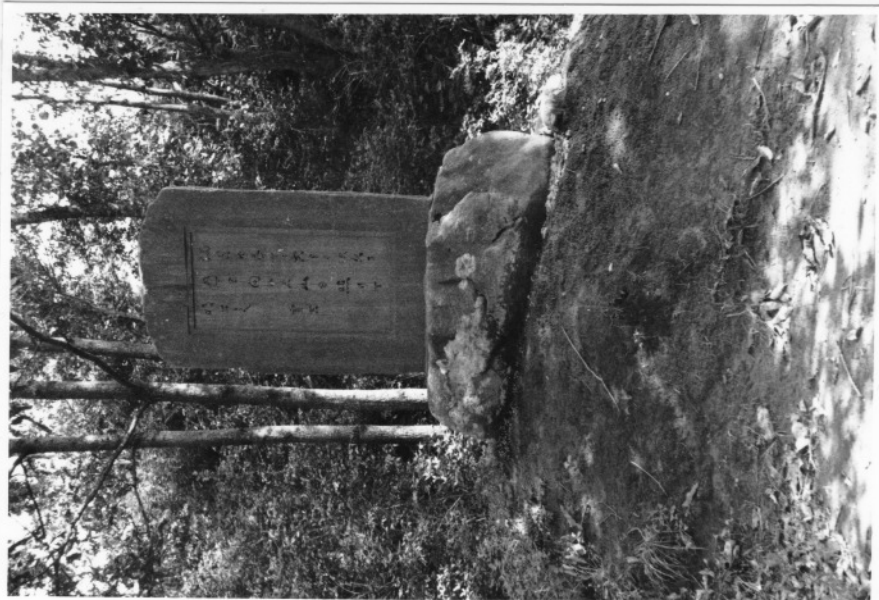
出でて向ひの山を照りて

明るし 憲吉

碑陰

この歌碑は中国新聞社の
提唱と援助により布野教
育振興会が建立したも
のである

昭和十九年五月十九日



中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市上布野二井殿 布野中学校 隣の栗林中

満月は暮るゝ空より須臾に
出でて向ひの山を照りて
明るし 憲吉

碑陰

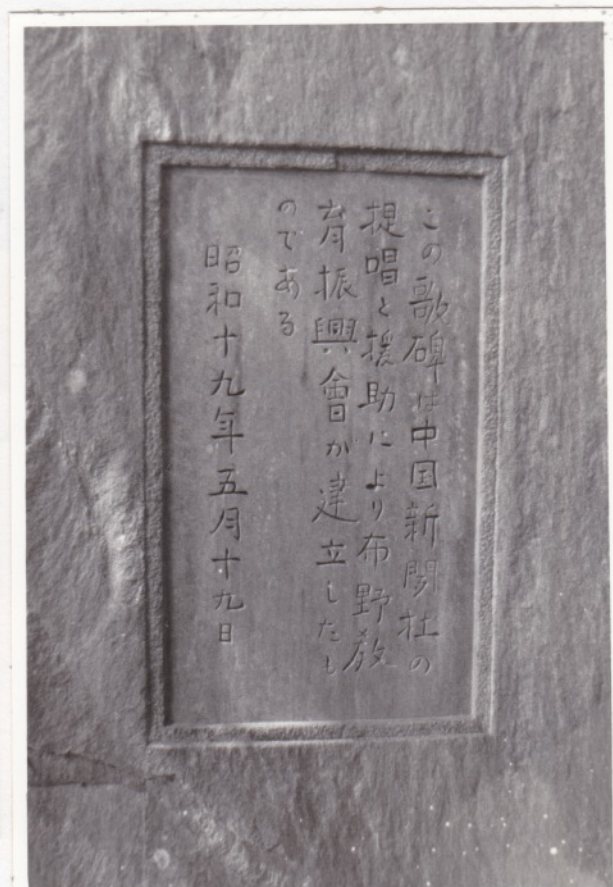
この歌碑は中国新聞社の
提唱と援助により布野教
育振興会が建立したもの
のである

昭和十九年五月十九日

説明板
裏側
↓



歌碑



中村憲吉歌碑

所在地 広島県双三郡布野村戸河内三三三 真光寺 鐘楼横

山こえて雨に来れる

碑陰

昭和四十五年十一月

檀那でら昔の堀の

栗原利春建之

百日紅のはな

憲吉

略歴

中村憲吉 明治三十二年一月二十五日 広島県双三郡布野村上布野に生まれる 東大経済学部卒業 昭和九年五月五日歿す 享年四十五歳 法名 林泉院釋淨信 憲吉居士 墓は広島県双三郡布野村 役場脇上段 中村家墓地にある



中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市布野戸河内 282-2 真光寺 鐘楼横

山こえて雨に来れる

檀那でら昔の塀の

百日紅のはな

憲吉

碑陰

昭和四十五年十一月

栗原利春建之



林中

山

山

山

山



歌碑

中村憲吉歌碑

所在地 広島県双三郡布野村 谷 入会(ごい)の森

入會之森 碑

造林の山を廣げみ
日照りつゝ天のしぐ
れの降りすぐるみゆ

憲吉

碑陰

入り会いの森の碑由来

この一帯の森はもと下布野村住民の入り会い地で北は岩倉山から南は宇遠木山に及びび広さ約一千二百町歩、遠く藩政時代から薪炭紫草の豊かな供給源として村民を潤して来た処である。明治維新の後、行政区画改正により布野村の誕生とともに下布野区有林となり、大正年間の整理によって半ばは区民各戸に分譲され、半ばは村有林に編入されたが、村有林の半分はなお区民の共有地域として残された。下つて昭和三十年、これが管理に当たると下布野生産森林組合が設立され、鋭意造林育成に努めて今日に至つた。また、明治百年に当たる今年、この境域の所有権が組合に移譲され、この山林の維持開発の体制が確立した。ここに世を経、代を重ねて来たゆきなく受けつがれて来た祖先の尊い営みの世に感謝するとともに、この美風が永く将来に継承されることを念願して、郷土が生んだ希望の歌人、中村憲吉の詠歌一首を刻み、この森の中央を点じてこの碑を建てる。

昭和四十三年十月

下布野生産森林組合



中村憲吉歌碑

所在地 広島県三次市布野町 谷 入会の森(いりあいのもり)

入 會 之 森 碑

造林の山を廣けみ

日照りつゝ天のしぐ

れの降りすぐるみゆ

憲 吉

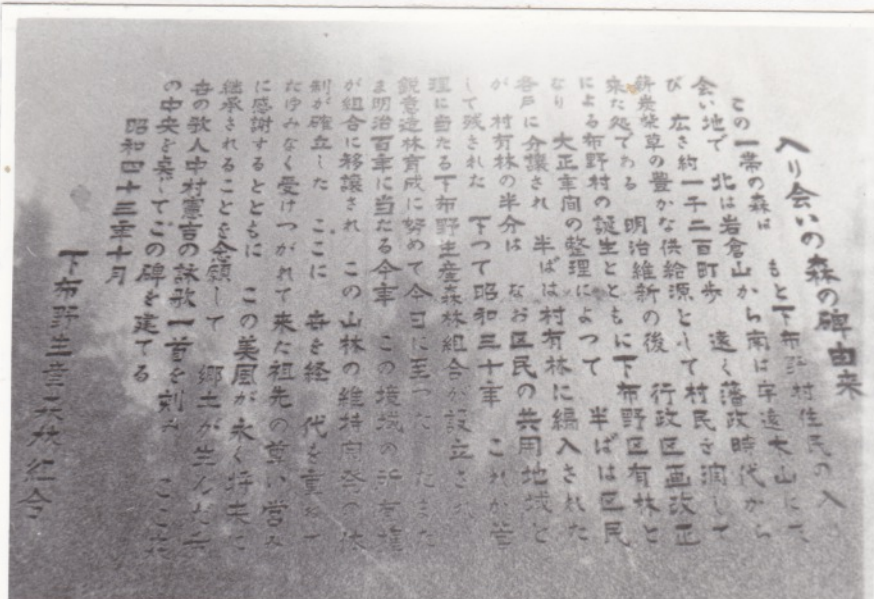
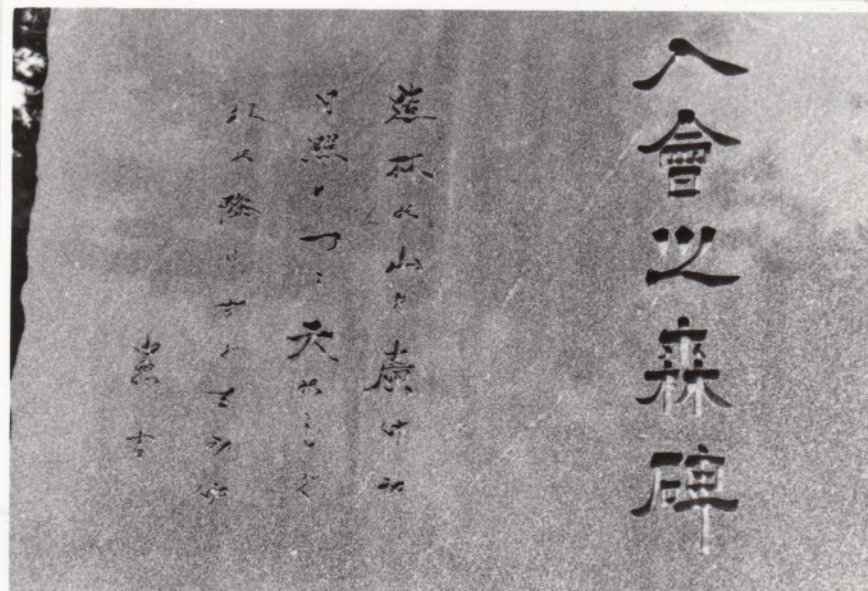
碑陰 入 り 会 い の 森 の 碑 由 来

この一帯の森は もと下布野村住民の入り
会地で 北は岩倉山から南は字遠木山に及
び 広さ約一千二百町歩 遠く藩政時代から
薪炭紫草の豊かな供給源として村民を潤して
来た処である 明治維新の後 行政区画改正
による布野村の誕生とともに下布野区有林と
なり 大正年間の整理によって 半ばは区民
各戸に分譲され 半ばは村有林に編入された
が 村有林の半分は なお区民の共有地域と
して残された 下って昭和三十年 これが管
理に当たる下布野生産森林組合が設立され
鋭意造林育成に努めて今日に至った たまた／

ま明治百年に当たる今年 この境域の所有権／が組合に移譲され この山林の維持
開発の体／制が確立した ここに 世を経 代を重ねて／たゆみなく受けつがれて
来た祖先の尊い営み／に感謝するとともに この美風が永く将来に／継承されるこ
とを念願して 郷土が生んだ希／世の歌人中村憲吉の詠う田一首を刻み ここ森／
の中央を点じてこの碑を建てる／

昭和四十三年十月

下 布 野 生 産 森 林 組 合



中村孝太郎文学碑

所在地 山形県最上郡戸沢村草薙温泉 「最上川一夜観音」前

小説

最上川「一夜観音」より

それから時代が移る。

新庄に汽車が通じるようになった秋彼岸、新庄駅に降りたひとりの身なりのいやしからぬ商人があつた。商人は、駅から二台の人力車を雇つて、うしろの一台に、何か毛布で包んだ重い荷物をのせて、草薙に向つて秋の最上峡を除行して行つた。

それから、草薙のしも手、すすきの深いところに川面に向つて、小さな石の観音像が立つようになった。

その観音像には、「近江國甚三郎彫ル」とあり、新しいものではなかったが、ただ「一夜観音」と、小さく、台に刻まれた銘刻だけが新しかったという。

中村孝太郎作

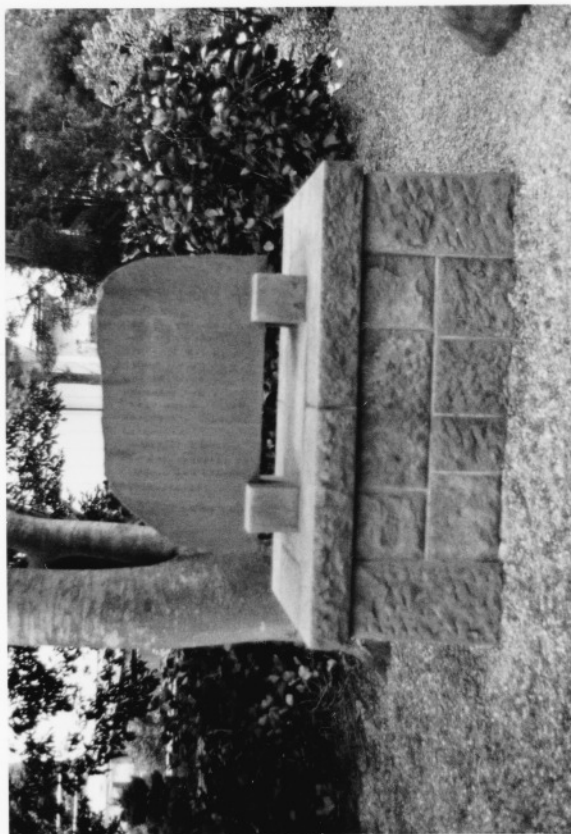
碑陰

昭和四十年五月

施主 最上峡観光協会

字 山形県観光協会副会長

鈴木吉助



中村孝太郎文学碑

所在地 山形県最上郡戸沢村草薙温泉 「最上川一夜観音」前

小説

最上川「一夜観音」より

それから時代が移る。

新庄に汽車が通じるようになった秋彼岸
新庄駅に降りたひとりの身なりのいやしか
らぬ商人があった。商人は、駅から二台の
人力車を雇うと、うしろの一台に、何か毛
布で包んだ重い荷物をのせて、草薙に向っ
て秋の最上峡を徐行して行った。

それから、草薙のしも手、すすきの深い
ところに川面に向って、小さな石の観音像
が立つようになった。

その観音像には、「近江國甚三郎彫ル」
とあり、新しいものではなかったが、ただ
「一夜観音」と、小さく、台に刻まれた銘
刻だけが新しかったという。

中村孝太郎作

碑陰

昭和四十年五月

施主 最上峡観光協会

字 山形県観光協会副会長

鈴木吉助



中村星湖歌碑

所在地 山梨県甲府市元紺屋町 妙遠寺墓地 古川家藏 寶貴堂墓

古川 時雄 永眠之地 百合

墓石右側面

万人の幸ねがひきて得しはたゞ

われら一人の小さきしあわせ

時雄
百合

墓石裏面

時雄 佐賀県
古川 儀七次男

年 月 日逝去

百合 甲府市
望月 好太郎次女

年 月 日逝去

墓石左側面

若き日に見て飽かさり

し甲斐が根を 老いも

墓石台座

死も越えて見ましと

百合いふ 星湖
并書

古
川

吾この空の下に生れ
雲にあこがれ
山の彼方を夢み
遠く旅ゆき
人の世のいく山河をへて
再び故山にまみゆ
あゝこの土の
あたゝかきかな

ゆり



中 村 星 湖 歌 碑

所在地 山梨県甲府市元紺屋町 妙遠寺墓地 古川家墓域 望月百合子墓石

時 雄

古 川 永 眠 之 地

百 合

墓石右側面

万人の幸ねがひきて得しはたゞ
われら二人の小さきしあわせ 時雄
百合

墓石裏面

佐 賀 県

時 雄 年 月 日逝去

古川儀七次男

甲 府 市

百 合 年 月 日逝去

望月好太郎次女

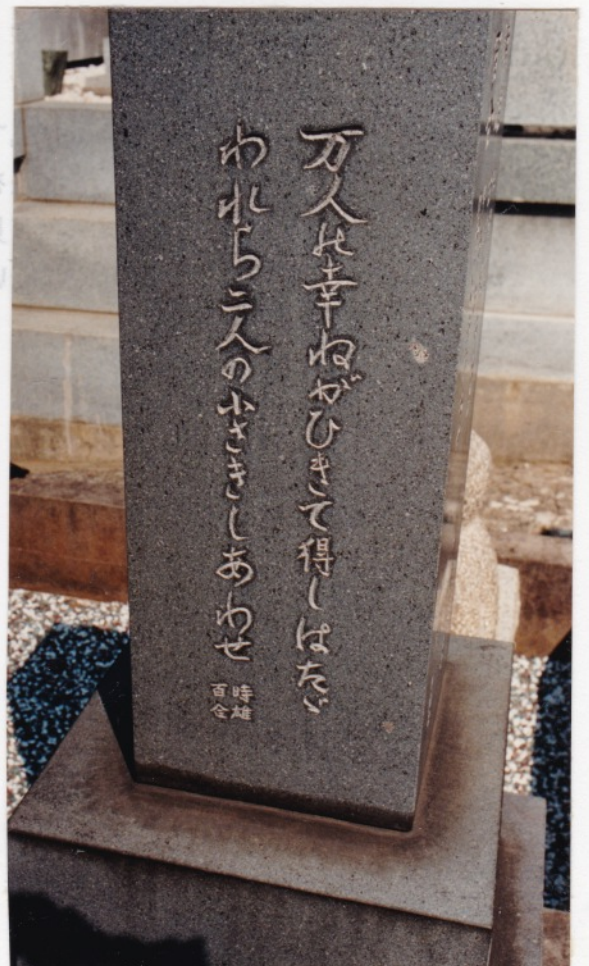
墓石左側面

若き日に見て飽かさり
し甲斐か根を 老いも
死も越えて見ましと
百合いふ 星湖詠
并書

墓石台座

古
川

吾この空の下に生れ
雲にあこがれ
山の彼方を夢み
遠く旅ゆき
人の世のいく山河をへて
再び故山にまみゆ
あゝこの土の
あたゝかきかな
ゆり



中村星湖歌碑

所在地 山梨県南都留郡河口湖町河口 河口善応寺墓地 中村墓域

故 海軍 中尉 中村文彦之墓

左側面

秋風や 大海原の 水底に

しづかに眠るわが子し

思はゆ

中村星湖作

昭和万葉集卷六

右側面

中村文彦ハ、父中村将為母中村まさ□ノ次男トシテ、大正八年一月十二日、神奈川県橋郡鶴見町生麦岸ニ生ラ享ケ、関東大震災後一家トトモニ東京市杉並区井荻町ニ居ヲ移シ、昭和十一年三月東京府立第六中学校卒業、昭和十六年十二月東京高等商船学校卒業直チニ充員召集ニヨリ海軍豫備少尉ニ任ゼラレ、昭和十七年一月、巡洋艦多摩ニ乗組ム、昭和十八年三月七日第十二号駆潜艇ニ機関長トシ乗組ミ対潜哨戒中昭和十八年四月二日岩手県東方海上ニオテ遂ケタ。享年二十四才。任海軍豫備中尉。

昭和五十八年十月

兄中村顯一 撰併書

裏面

昭和五十八年十月

中村顯一建之

(注) 中村将為ニ中村星湖



中村星湖歌碑

所在地 山梨県南都留郡富士河口湖町河口 160 河口善応寺墓地 中村家墓域

海 軍

故 中村文彦之墓

中 尉

左側面

秋風や大海原の水底に

しづかに眠るわが子し

偲ばゆ 中村星湖作

昭和万葉集巻六

右側面

中村文彦ハ、父中村将為母中村まさ□ノ次男トシテ、大正八年一月十二日、神奈川県橘郡鶴見町生麦岸ニ生ヲ享ケ、関東大震災後一家トトモニ東京市杉並区井荻町ニ居ヲ移シ、昭和十一年三月東京府立第六中学校卒業、昭和十六年十二月 東京高等商船学校卒業直チニ充員招集ニヨリ海軍豫備少尉ニ任ゼラレ、昭和十七年一月、巡洋艦多摩ニ乗組ム、昭和十八年三月七日第十二号駆潜艇ニ機関長トシテ乗組ミ対潜哨戒中昭和十八年四月三日岩手県東方海上ニオイテ米潜水艦ノ雷撃ニヨリ轟沈、乗組員全員トトモニ壮烈ナ戦死ヲ遂ゲタ。享年二十四才。任海軍豫備中尉。

昭和五十八年十月

兄中村顯一 撰併書

裏面

昭和五十八年十月

中村顯一建之

(注) 中村将為＝中村星湖



中村星湖文学碑

所在地 山梨県南都留郡河口湖町河口 河口善應寺境内

拈華山上花

善應寺辺墳

雖世変生動

子孫代々松

善應寺墓畔吟 湖叟

昭和四十三年八月

中村星湖作並書

碑陰

倉澤芳貞藏



中村星湖文学碑

所在地 山梨県南都留郡富士河口湖町河口 160 河口善応寺境内

拈華山上花

善応寺辺墳

雖世変生動

子孫代々耘

善應寺墓畔吟 湖叟

昭和四十三年八月

中村星湖作並書

碑陰

倉澤芳貞藏

略歴

中村星湖 本名 将為(まきため) 明治 17 年 2 月 11 日 山梨県南都留郡河口村に
生まれる 早大英文科卒業 昭和 49 年 4 月 13 日歿す 享年 90 歳 墓は山梨県
南都留郡富士河口町河口 160 河口善応寺墓地にある



中村星湖文学碑

所在地 山梨県南都留郡河口湖町 産屋ヶ崎

熔岩の

くずれの

富士の裾は

しつに

広漠たる

眺めである

星湖

碑陰

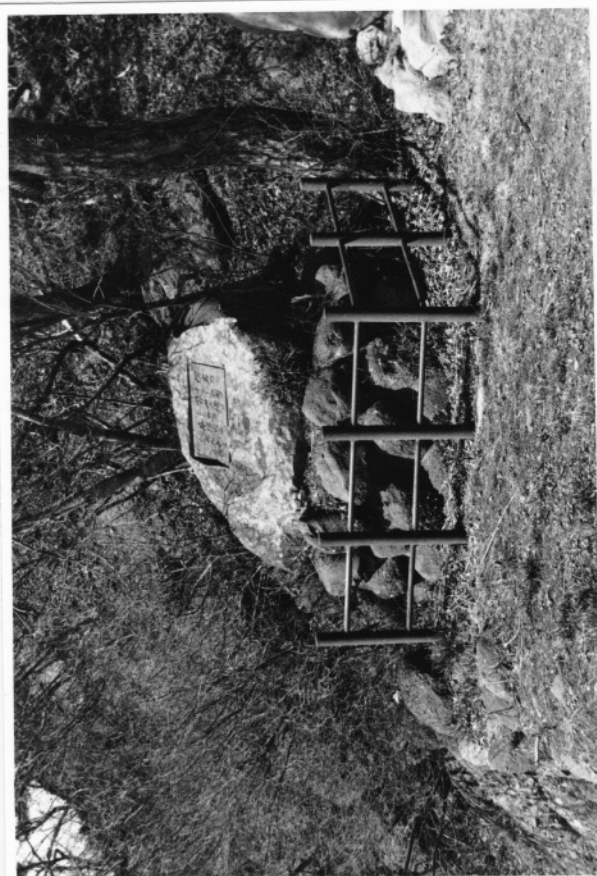
中村星湖は明治十七年二月十一日河口湖畔に生れた。お処女作「少年行」は日本自然主義文学史上不朽の名作である。ここに古希の壽を機縁に自筆の一節を刻み記念とする。

昭和三年五月

山人会

略歴

中村星湖 本名 将為(まさみ) 明治十七年二月十一日 山梨県南都留郡河口村に生まれる。早大英文科卒業。昭和四十九年四月十三日歿す。享年九十一歳。墓は山梨県南都留郡河口湖町河口二六〇 河口善応寺墓地にある。



中村星湖文学碑

所在地 山梨県南都留郡富士河口町河口 産屋ヶ崎

熔^ラ岩^バの
くずれの
富士の裾は
じつに
広漠たる
眺めである
星湖

碑陰

中村星湖は明治十七年二月十一日河口湖畔に生れた
その処女作「少年行」は日本自然主義文学史上不朽の名作である
ここに古希の壽を機縁に自筆の一筆を刻み記念とする

昭和三十二年五月

山人会

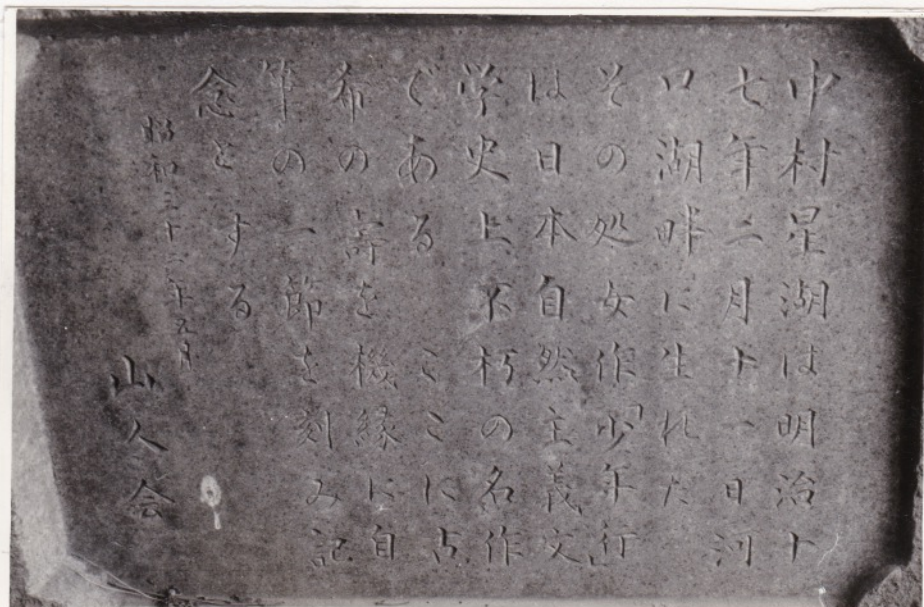




富士山と河口湖
←と文豪碑



目下新湖と文豪の碑



中村白葉墓誌碑

所在地 東京都港区西麻布二二三番 長谷寺(李参別院)墓地 中村家墓域

人生を愛し人生になやみ苦しむつつも

八十二年の人生を味わい深く生きたりと

自負する男ここにねむる

白葉

碑陰

中村白葉 ロシア文学者 一九四五年 信州木崎湖畔の 夏季文学に於て 例年の講義を終え 終了した直後 昏倒し
 夢境一如の裡に 瀕死となり 八十三歳の夭折を免うた トルストイ テホフの文学作品を始め ロシア文学精粹は
 白葉 畢生の訳出によつて われらの血脈に流れ 彫心鑠骨の文藝は 藝術院賞 ソ連名譽勲章に 輝いている
 家に 中村圓子 彌生 重子 久門重佳子の 三女あり 書斎 白葉居の隣より 故白葉の 墓誌銘を 発見し
 母け子等の遺意を体して 茲にこの碑を建立 三姉妹の祈念をこめて 両親遺慕のすがにもと 慰めうものである

一九七五年夏目

學知 今井正利 誌す



中村白葉墓誌碑

所在地 東京都港区西麻布 2-21-34 長谷寺(永平寺別院)墓地 中村家墓域

人生を愛し人生になやみ苦しきつも

八十三年の人生を味わい深く生きたりと

自負する男ここにねむる

白葉

碑陰

中村白葉 ロシア文学者 一九七四年夏 信州木崎湖畔の 夏季大学に於て 例年の講義を終え 終了した直後 昏倒し／夢幻一如の裡に 清冽高邁なりし八十三歳の天寿を完うした トルストイ チェホフの全作品を始め ロシア文学精粹は／白葉畢生の訳出によつて われらの血脈に流れ 彫心鏤骨の文業は 芸術院賞 ソ連名誉勲章に 輝いている／全家に 中村園子 彌永三恵子 久門富佐子の 三女あり 書斎 白葉居の篋底より 故人自筆の 墓碑銘を 発見し／母けふ子の遺志を体して 茲にこの碑を建立 三姉妹の祈念をこめて 両親追慕のよすがにともと庶幾うものである／

一九七五年夏日

辱知 今井正利 誌す

略歴

中村白葉 本名 長三郎 明治 23 年 11 月 23 日 兵庫県で生れる 東京外語露語科卒業 昭和 49 年 8 月 12 日歿す 享年 83 歳 墓は東京都港区西麻布 2-21-34 長谷寺墓地にある

中林白葉墓



中村白葉詞碑

所在地 長野県大町市十日町500 市立大町図書館前庭

事実は唯一

無二のもの

その重さは

比較を絶する

白葉

碑陰

中村白葉先生

ロシア文学者 本名長三郎 兵庫県

出身 先生は信濃木崎夏季大学の伝

統と此の地の人情風土を深く愛され

来堂十一回に及んだ 此の間文学と

人生の真髓を滋味溢れる言葉で語り

受講者に多大の感銘を与えた

昭和四十九年八月六日「生きることと

死ぬこと」と題する講義終了直後病に

倒れ同十二日此の地において逝去さ

れた 時に八十三歳であつた また

先生の愛蔵書は歿後大町市立図書館

に中村白葉文庫として寄贈された

茲に先生の高潔な人格を追慕し書き

遺された人生至純の言葉を石に刻し

て永き記念とする

昭和五十二年十月三日

北安曇教育会

略歴

中村白葉 本名 長三郎 明治二十三

年十二月二十三日 兵庫県で生まれ

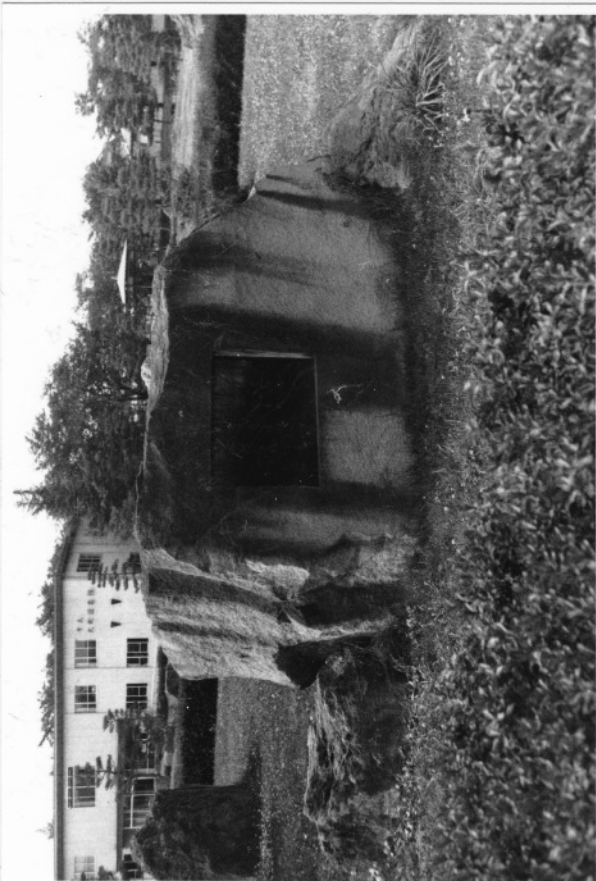
名古屋市西州崎町で育つ 東京

外語露語科卒業 昭和四十九年八月

十二日歿す 享年八十三歳 墓は東京

都港区西麻布二丁目三十四 長谷寺

墓地にある



中村白葉詞碑

所在地 長野県大町市十日 4700 市立大町図書館 前庭

事 実 は 唯 一

無 二 の も の

そ の 重 さ は

比 較 を 絶 す る

白 葉

碑陰

中村白葉

ロシア文学者 本名長三郎 兵庫県
出身 先生は信濃木崎夏季大学の伝
統と此の地の人情風土を深く愛され
来堂十一回に及んだ 此の間文学と
人生の真髓を滋味溢れる言葉で語り
受講者に多大の感銘を与えた

昭和四十九年八月六日「生きることと
死ぬこと」と題する講義終了直後病に
倒れ同十二日此の地において逝去さ
れた 時に八十三歳であつた また
先生の愛蔵書は歿後大町市立図書館
中村白葉文庫として寄贈された
茲に先生の高潔な人格を追慕し書き
遺された人生至純の言葉を石に刻し
て永き記念とする

昭和五十一年十月二十三日

北 安 曇 教 育 会

大町図書館 →



中

るす飾を煉出



中村正爾歌碑

所在地 茨城県つくば市筑波町一 筑波山神社境内

筑波嶺は

女男の神山

並び立ち

空をかきりて

乳房型の山

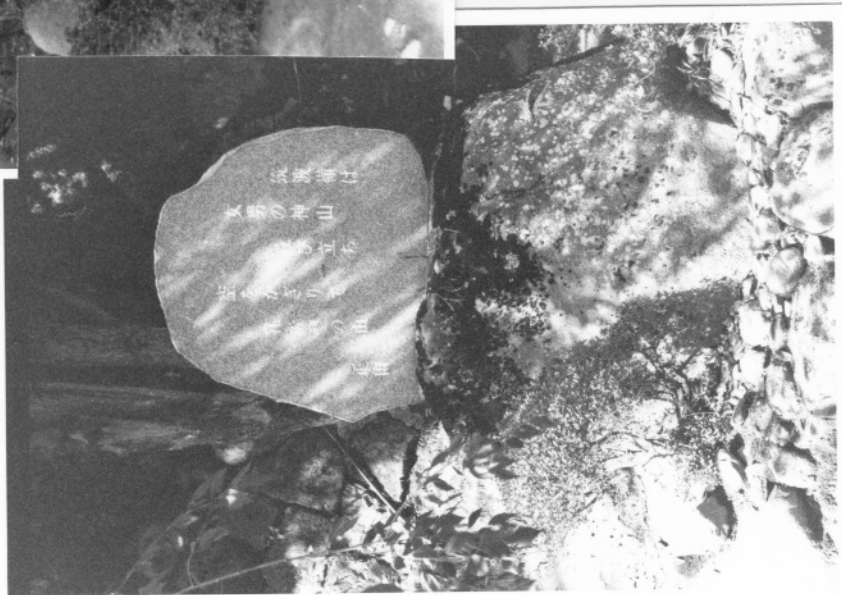
正爾

碑陰

歌人中村正爾詠む
中央短歌会 建立
昭和三十三年八月五日

略歴

中村正爾 明治三十年六月一日 新潟市に生まれる 新潟師範卒業 昭和三十三年四月五日歿す 享年六十六歳



中村正爾歌碑

所在地 茨城県つくば市筑波町1 筑波山神社境内

筑波嶺は
女男の神山
並び立ち
空をかぎりて
乳房型の山
正爾

碑陰

歌人中村正爾詠む
中央短歌会 建立
昭和五十三年八月五日

略歴

中村正爾 明治30年6月1日 新潟市に生れる 新潟師範卒業 昭和39年
4月5日歿す 享年66歳



中村武羅夫文学碑

所在地 北海道岩見沢市十三条西五丁目 東山総合公園 陸奥

誰だ

花園を

荒す者は

武羅夫

碑陰

文字なし

副碑

碑のことば

中村武羅夫は明治十九年十月四日岩見沢市東町九番地にて父楨次母ヨシエの長男に生れ、二十二才の時上京して小栗風葉の門に入る。後新潮社に入社新潮編集長となり、多くの小説評論集を書きまた不同調を主筆し文壇の領袖として文学活動を続け日本文学の発展に貢献された。終始荒海を愛し、湘州辻堂海岸に居住されていたが昭和二十四年五月十三日自宅にて歿した。ここに業績を讃え有志相はかり碑を建立して永く顕彰する。

昭和二十四年五月十三日

中村武羅夫文学碑

建立期成会長 川村芳次書



中村武羅夫文学碑

所在地 北海道岩見沢市十三条西五丁目 東山総合公園内 体育館横

誰だ
花園を
荒す者は
武羅夫

碑陰

文字なし

副碑

碑のことば

中村武羅夫は明治十九年十月四日岩見沢市東町九番地にて父禎次母ヨシエの長男に生れ、二十二才の時上京して小栗風葉の門に入る。後新潮社に入社新潮編集長となり、多くの小説評論集を書きまた不同調を主宰し文壇の領袖として文学活動を続け、日本文学の発展に貢献された。終始荒海を愛し、湘州辻堂海岸に居住されていたが、昭和二十四年五月十三日自宅にて歿した。ここに業績を讃え有志相はかり碑を建立して永く顕彰する

昭和四十四年五月十三日

中村武羅夫文学碑

建立期成会長 川村芳次書





中

花

園

荒



中

花

園

荒

中

花

碑のことは
中村武羅夫は明治十九年十
月四日岩見沢市東町九番地
に父碩次母ヨシエの長男
として生まれる。二歳の時上京し
て小栗風葉の門に入る。後
新潮社に入社。新潮編集長と
なり多くの小説評論集を書
き、また不同調を主宰し文壇
の領袖として文学活動に統
けられた。日本文学の発展に貢
献した。昭和二年五月十三日
過堂海岸に居住されていた
が昭和二十四年五月十三日
自宅にて没した。ここに堂
蹟を讀む有志相はかり碑を
建立して永く顕彰する。
昭和四十四年五月十三日
中村武羅夫文学碑
建立期成会長 川村芳次書



中村武羅夫記念碑

所在地 北海道岩見沢市東町二条五丁目 東神社 鳥居横

文豪

中村武羅夫出生之地

岩見沢市長

川村芳次書

碑陰

明治十九年十月四日生（於東九番地五号）

昭和二十四年五月十三日歿（於藤沢市辻堂）

昭和四十四年五月十三日

中村武羅夫文学碑建立期成会建之

（注）この碑は「入徳学舎跡」の碑の横に建っている

略歴

中村武羅夫 明治十九年十月四日 北海道空知郡岩見沢村幾春別に生まれる
岩見沢小学校卒 昭和二十四年五月十三日歿す 享年六十二歳 法名 高勝院秀文武
羅夫大居士 墓は東京都府中市多磨町 多磨霊園 二十三区三種二十六側十五番に
ある



中村武羅夫記念碑

所在地 北海道岩見沢市東町二条五丁目 東神社 鳥居横

文豪

中村武羅夫出生之地

岩見沢市長

川村芳次書

碑陰

明治十九年十月四日生（於東九番地五号）

昭和二十四年五月十三日歿（於藤沢市辻堂）

昭和四十四年五月十三日

中村武羅夫文学碑建立期成会建之

（注）この碑は「入徳学舎跡」の碑の横に建っている

略歴

中村武羅夫 明治 19 年 10 月 4 日 北海道空知郡岩見沢村幾春別に生れる
岩見沢小学校卒 昭和 24 年 5 月 13 日歿す 享年 62 歳 法名 高勝院秀文
武羅夫大居士 墓は東京都府中市多磨町 多磨霊園 22 区 2 種 26 号 15 番
にある

中村武羅夫記念墓



昭和四十四年四月二十日

中村武羅夫文学館建立記念会

(中) 中村武羅夫文学館建立記念会



中村武羅夫文学碑

所在地 神奈川県藤沢市辻堂 勘久公園内

誰だ

花園を荒す

者は

中村武羅夫

碑陰

中村武羅夫碑誌 (1886年生 1949年歿)

作家中村武羅夫は北海道岩見沢市の出身、後年文芸出版社新潮社に入り新潮編集長としてまた不同調主宰者として文壇活躍、一方長篇小説作家としても盛名をばせた。碑面の文字は昭和三年、当時芸術派の活躍に對しプロレタリア文学が猛然と擡頭、その激突に際して表題の論文を新潮誌上に發表、時の文壇を騒然たらしめた。氏の終始中村氏に親近せるわれら、この獅子吼を碑に刻み、氏の終焉の地となつたこの一廓に記念として建てる。

昭和四年十一月五日

發起人

阿部知二
浅原六郎
石川達三
伊藤一
大宅壯一
川端康成

貴司 山治
今東 光治
芹沢 良
田辺 茂一
戸川 貞雄
徳田 一徳
榑崎 勤

成瀬正勝
丹羽文雄
福広津和郎
福田清人
舟橋聖一
船山馨
吉屋信子

許 清 瀬 弘

此の碑の建設に當り藤沢市、岩見沢市、新潮社、講談社が多大の協力をせられたことを感謝する。



中村武羅夫文学碑

所在地 神奈川県藤沢市辻堂 勘久公園内

誰だ
花園を荒す
者は
中村武羅夫



碑陰

(1886 年生)

中村武羅夫碑誌 (1949 年歿)

作家中村武羅夫は北海道岩見沢市の出身、後年文芸出版社新潮社に入り新潮編集長としてまた不同調主宰者として文壇に活躍、一方長篇小説作家としても盛名をはせた。

碑面の文字は昭和三年、当時芸術派の活躍に対しプロレタリア文学が猛然と擡頭、その激突に際して表題の論文を新潮誌上に発表、時の文壇を騒然たらしめた。

終始中村氏に親近せるわれら、この獅子吼を碑に刻み、氏の終焉の地となったこの一郭に記念として建てる。

昭和四十三年十一月二十五日

	阿部知二	貴司 山治	成瀬正勝
人	浅原六朗	今 東 光	丹羽文雄
	石川達三	芹沢光治良	広津和郎
起	伊藤 整	田辺 茂一	福田清人
	大宅壮一	戸川 貞雄	舟橋聖一
発	翁 久允	徳田 一穂	船山 馨
	川端康成	楢 崎 勤	吉屋信子

設計 瀧 瀬 弘

尚この碑の建設に当り藤沢市、岩見沢市、新潮社、講談社から多大の協力を寄せられたことを感謝する。



作家中村武羅夫は北海道岩見沢市の出身、少年文芸出版社新潮社に入り、新潮編集長としてまた不同調主宰者として文壇に活躍、一方長篇小説作家としても盛名を上げた。碑面の文字は昭和三年、当時芸術派の活躍に對し「口レタリ」ア文学が猛烈と提議、その激突に際して表題の論文を新潮誌上に発表、時の文壇を騒然たらしめた。終始中村氏に親近せらるわれらの獅子吼を碑に刻み、氏の終焉の地となつたこの一帯に記念として建てたる。

昭和四十三年十一月二十五日

人起発
 阿部知二 貴司山治 成瀬正勝
 浅原六朗 今東光 丹羽文雄
 石川達三 芹沢光治良 福津和郎
 大宅壮一 田辺茂一 舟橋聖一
 伊藤久 戸川貞雄 杉山信子
 川端康成 稻垣一徳 吉屋信子
 篠田篤 松浦健夫

昭和四十三年十一月二十五日

中村武羅夫碑誌 (1886年生)

中山義秀文学碑

所在地 福島県耶麻郡北塩原村檜原湯平山 「裏磐梯高原ホテル」前

裏磐梯にて歌へる 中山義秀

碑陰

文字なし

こは我等が思ひ出の宿なり

なかば夢見心地の時ぞおくれる

再来の日ありやなしや

よしありとても過ぎし日は返らじ

かたみに交す愛の唄

(注)文献では

昭和三年の建設

時に古ゆく哀しさよ

同窓中山義秀君は明治三十三年岩瀬郡大屋村(現西白河郡大信村)に生れ、安積郡中学より早稲田大学英文科に学び、創作に志し刻苦精進、昭和十三年「厚物咲」により第七回芥川賞を受く。翌年「健」を發表文壇の位置定まる。作風質実剛健にして格調高し。晩年癌疾と闘いつつ「咲庵」「芭蕉庵桃青」など一連の業績により藝術院會員に推さる。昭和四十四年

月 (母校養正学校)
桑 野 会 撰



中山義秀文学碑

所在地 福島県耶麻郡北塩原村桧原湯平山 171 「裏磐梯高原ホテル」前

裏磐梯にて歌へる 中山義秀

こは我等が思ひ出の宿なり
なかば夢見心地の時ぞおくれる
再来の日ありやなしや
よしありとても過ぎし日は返らじ
かたみに交す愛の唄
時に古ゆく哀しさよ

同窓中山義秀君は明治三十三年岩瀬郡大屋村(現西白河郡大信村)に生れ、安積中学より早稲田大学英文科に学び、創作に志し刻苦精進、昭和十三年「厚物咲」により第七回芥川賞を受く。翌年「碑」を発表文壇の位置定まる。作風質実剛健にして格調高し。晩年癌疾と闘いつつ「咲庵」「芭蕉庵桃青」など一連の業績により藝術院會員に推さる。昭和四十四年八月六十九歳にて逝く。

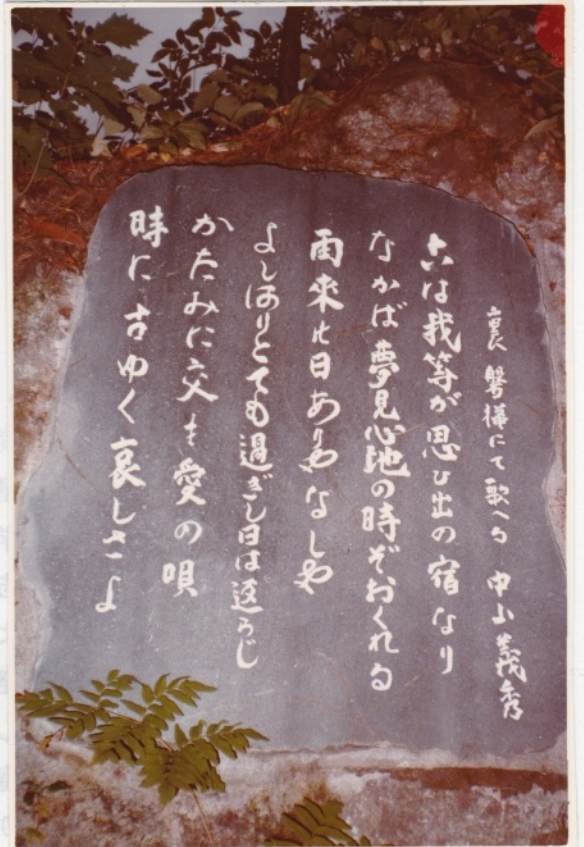
昭和五十九年六月 (母校安積高等学校)

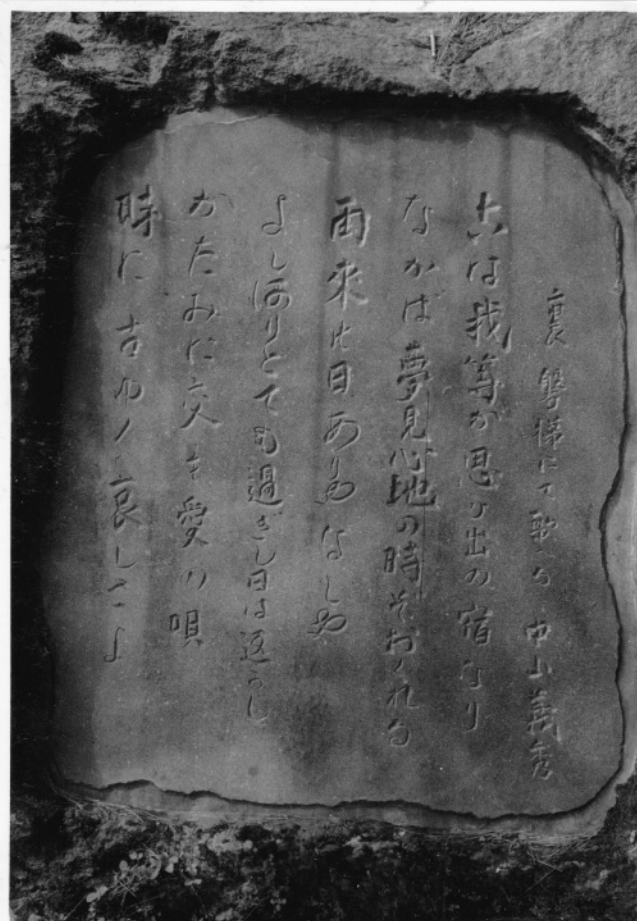
(創立百周年)

安積桑野会 撰

碑陰 文字なし

(注) 文献では昭和三十一年の建設とのこと





裏磐梯高原ホテル「しやんかけ花」の碑

中山義秀文学碑

所在地 福島県岩瀬郡長沼町 城山(牛臥城址)

一九六二年秋
長沼町有志建立

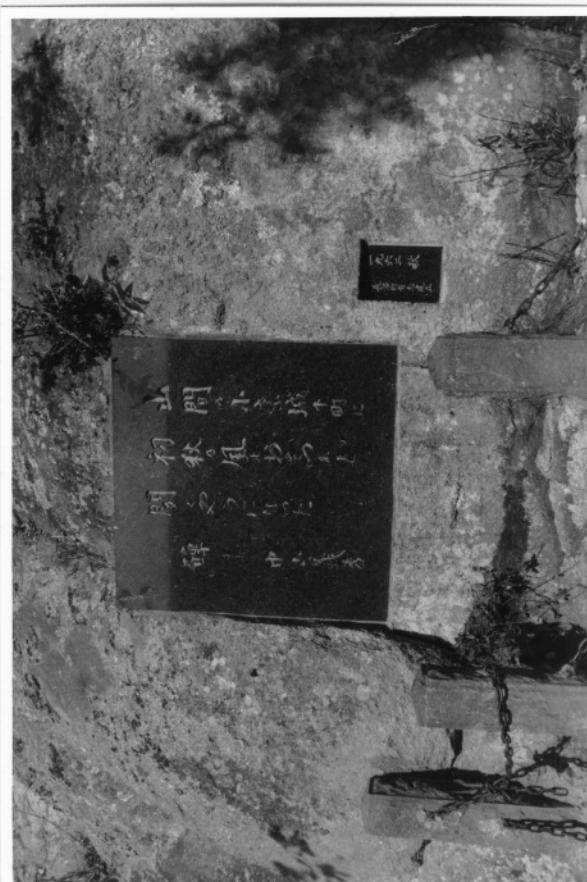
碑陰

文字なし

山間の小さな城下町に
初秋の風のおとづれを
聞くやうになった

「碑」より

中山義秀



中山義秀文学碑

所在地 福島県須賀川市長沼町 城山（牛臥城址）

一九六二秋

長沼町有志建立

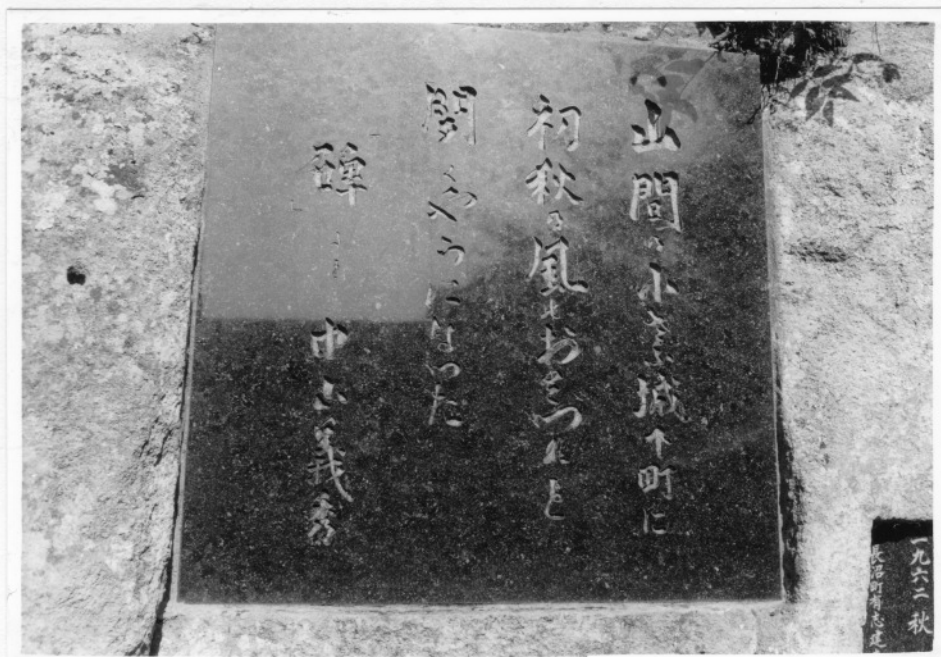
山間の小さな城下町に
初秋の風のおとづれを
聞くやうになった

「碑」より 中山義秀

碑陰

文字なし

山田藩主墓所



中山義秀文学碑

所在地 千葉県成田市 成田公園内 温室近く

野の花にも美しさはある

中山義秀

碑陰

藝術院会員中山義秀君気骨稜々として古武士の風格あり
文筆に秀で風雅を愛し多年中央文壇に在つて多くの作品
を發表し一代の文豪たり其の著すところの書巻いづれも
格調高く風韻に充ち読む者をして襟を正さしむ
中山君壯年の頃当地に止まり成田中學校に教鞭を取るこ
と数年に及ぶ当時訓育を受けたる学生相集まり旧師の俤
を慕つて碑を建つると云う其の舉に賛し旧友のために敢
て蕪文を撰す 昭和四十六年三月 石川達三

設計 谷口吉郎



中山義秀文学碑

所在地 千葉県成田市成田 1 成田新勝寺隣 成田公園 温室近く

野の花にも美しさはある

中山義秀

碑陰

藝術院会員中山義秀君気骨稜々として古武士の風格あり
文筆に秀で風雅を愛し多年中央文壇に在って多くの作品
を発表し一代の文豪たり其の著すところの書卷いづれも
格調高く風韻に充ち読む者をして襟を正さしむ

中山君壮年の頃当地に止まり成田中學校に教鞭を取るこ
と数年に及ぶ当時訓育を受けたる学生相集まり旧師の倂
を慕うて碑を建つると云う其の舉に賛し旧友のために敢
て蕪文を撰す 昭和四十六年三月 石川達三

設計 谷口吉郎

